



**PARKS**

EDGE-PRIME  
Initiative

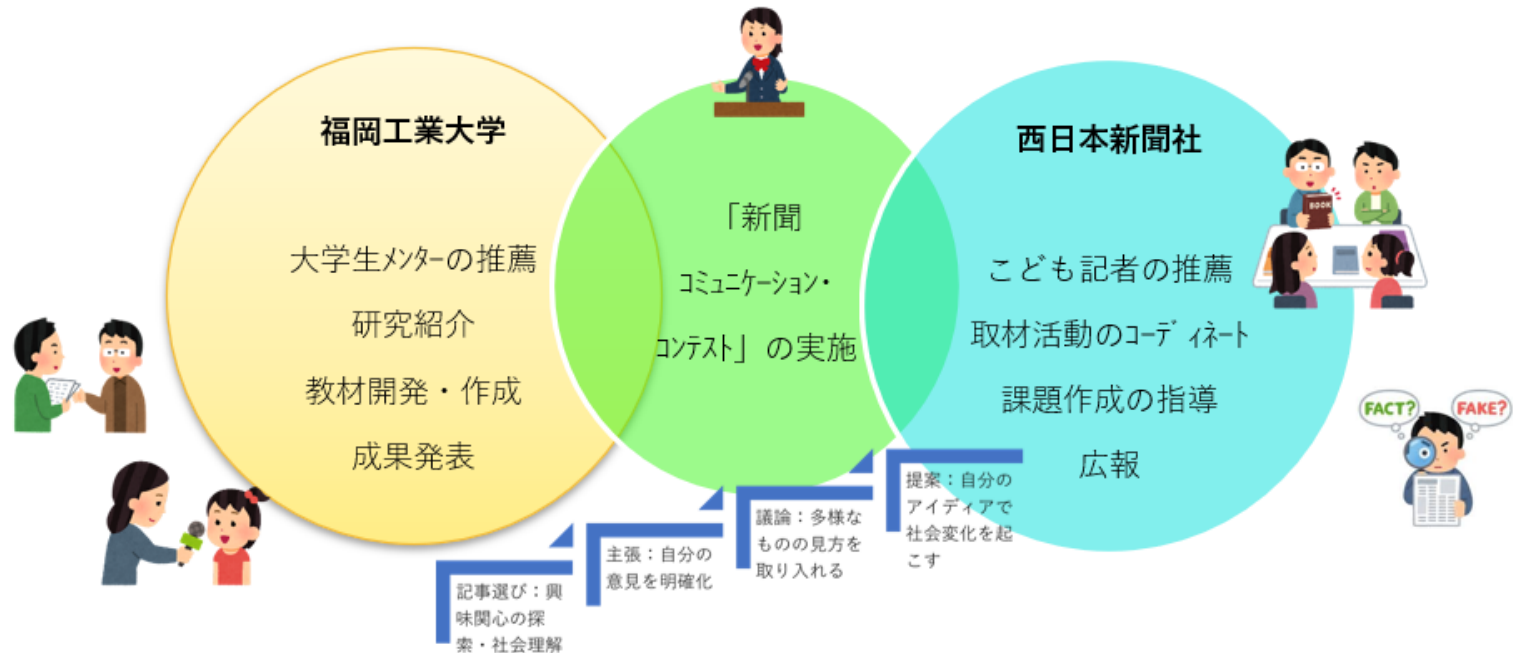
# PARKS 2023-2025年度 EDGE-PRIME Initiative実施報告

福岡工業大学  
教養力育成センター  
教授 中野美香  
[nakano@fit.ac.jp](mailto:nakano@fit.ac.jp)

生涯にわたって子供たちを応援するアントレ教育に向けた  
アウトカムの伴うプログラムの構築

# 取り組みの概要

- 新聞を活用したアントレ教育：調べる・プレゼン・コミュニティづくり
- VUCA時代の子どもには、情報から課題を見つけ、多様な視点を得て自分の言葉で社会に提案し、異なる背景の仲間と学び合う力が求められる。そこで本取り組みは、西日本新聞との包括連携協定により10年以上実施してきた「新聞コミュニケーション・コンテスト」の知見を基に、**こども記者経験者の小中高生への6か月の教育活動**を通してアントレプレナーシップを育成し、次世代の学習コミュニティ形成と基礎スキル育成法を提案する。







# 2024年度の取り組み

- 西日本新聞  
2024年12月21日朝刊

- 2024テーマ「林業」：  
ソーシャルアントレプレナーへの取材@大分

- アンケート結果  
「また参加したい」100%  
「これからの自分・イベント等」  
「これからの自分・イベント等」  
等に今回の経験が影響する」90%

福岡工業大学 × 西日本新聞 ども記者  
福岡工業大学アントレプレナーシップ教育企画  
自分らしさを生かして社会課題解決/  
小中高生と大学生が学び合う

「アントレプレナーシップ」って聞いたことありますか？日本語で言うと「起業家の精神」。起業家が会社を起こすように、社会をより良くするため、自由な発想や自分らしさを生かす姿勢のことです。福岡工業大学は、九州・沖縄の大学など19機関でつくるPlatform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup-ecosystem<PARKS(パークス)>に参加、2023年からスタートアップ・エコシステムを創出していくアントレプレナーシップ教育プログラムを西日本新聞ども記者を対象に企画。今年は6月から10月にかけて、福岡工業大学生がメンターとして加わり実施しました。



【取材先】本松浩太さん(福岡小5年)、田代大智さん(福岡北小5年)、奥村真知子さん(福岡小5年)、伊藤真由さん(福岡小5年)、若木由佳さん(中1)、山崎好彦さん(久留米大附1年)、倉田孝典さん(久留米大3年)、川島真月さん(福岡大附属東区2年)、永井百花さん(筑紫女学2年)、西井彩人さん(N高3年) 【大学生メンター】影船祐成さん(工学部電子情報工学科)、奥田直哉さん(工学部知能機械工学科)、久保孝太郎さん(同)、千賀隼さん(工学部電気工学科)、佐藤進さん(工学部電子情報工学科)、高田いづみ(情報工学部情報通信工学科)、奥田隼さん(社会福祉学部社会福祉学専攻)

### 1 事前学習

#### 下調べ、取材の視点学ぶ

取材に参加する小中高生は6月、福岡工業大学(福岡市東区)での事前学習会に参加しました。取材テーマは「森の役割」。新聞やインターネットなどで事前に下調べをして、自分なりの取材テーマを持ち寄りました。両大の中野美香教授は、アントレプレナーシップについて説明した後、取材の成果を発表するコンテストに向けてプレゼンテーションの基本について指導。「内容だけでなく伝え方に気を配ること。熟者が一番大事です」とアドバイスしました。グループワークでは、大学生メンターが加わり、ディスカッションを通じて理解を深めました。

福岡工業大学 中野美香教授

### 2 現地取材

#### 未来へ森を守り、活用する

取材班1日は夏休みに1泊2日で大分県日田市・由布市を訪れました。マルマタ林業(合原真知子代表)の森林慣習士・合原真典さんの案内で前津江の山林へ。スギやヒノキが植林された斜面を歩き、数十年後を思い描きながら伐採の準備を進めながら、数十年後を思い描きながら伐採の準備を進めながら、数十年後を思い描きながら伐採の準備を進めながら...

### 4 コンテスト

#### 新聞記事を参考に提案

取材の成果を発表する「新コミュニケーション・コンテスト」は10月27日、福岡工業大学であり、10人がプレゼンテーションを行いました。「森の役割」をテーマに取材した子どもたちは、関連する新聞記事を参考に社会課題を解決する取り組みを考えました。パワーポイントにまとめ、11.5分間の持ち時間で、保護者を含めた約40人前に自分の思いを熱く伝えました。話し方や提案の具体性、社会を憂える熱意などの観点から審査の結果、「バイオマス発電を広めよう」と呼びかけた奥村真知子さんが最優秀賞、田代大智さん、倉田孝典さん、永井百花さんが優秀賞を獲得しました。

### 3 発表資料制作

#### プレゼンのこつアドバイス

大学生メンターの提案で、コンテストに向けて、子どもたちの資料作りをサポートする集いを福岡工業大学で開催しました。最新のICT環境の下、パワーポイントを使って、見やすい字体や写真・イラストの活用など、聞く人を引き付けるこつを大学生がマンツーマンで指導。子どもたちは「こうやればいいんだ」とうなずきながらパソコンに向かっていました。

Check!

昨年の勉強会などの様子をYouTubeで紹介しています!

西日本新聞ども記者とは

2010年にスタートし、これまでに約900人がども記者として取材活動を経験。スポーツ、芸術、伝統工芸、観光地探訪、産業探訪など幅広いテーマで九州を中心に全国各地を訪れ、著名人や専門家と話を聞き記事にしています。

ども記者の詳細はこちら

#### 活動を振り返って

<h4>人前で話す経験できた</h4> <p>人前で話すのが恥ずかしくて苦手な、上手に発表できるようなりたかったと思って今回の企画に参加しました。発表の経験は、家で何回も練習した経験が活きました。大学生が気軽に話かけてくれてうれしかったです。</p> <p>松ヶ江北小6年 奥村真知子</p>	<h4>林業のこと深く学べた</h4> <p>取材を通じて林業のことを深く知ることができました。発表では、もっと共通を広げたいのに表現の仕方を工夫する必要があったと学びました。写真は社会問題を解決できるようなものになりたかったです。</p> <p>久留米大附1年 山崎好彦さん</p>	<h4>身近に引き寄せて発表</h4> <p>どの取材先でも森への愛を感じました。大学生メンターから、自分の身近なことに引き寄せて発表する方が説得力があると、アドバイスをもらいました。プレゼンは時間を越えてしまったのが反省点です。</p> <p>筑紫女学2年 永井百花さん</p>	<h4>みんなの集中力に感心</h4> <p>事前学習と発表会に参加しましたが、人の話を聞く際の集中力や、プレゼンもみんなが落ち着いて聞いて感心しました。将来は子どもにも関心を持って話を聞かせたいと考えているので、とても勉強になりました。</p> <p>福岡工業大学4年 千賀隼さん</p>
--	--	--	---

取材にご協力いただいた方々 (敬称略)

【マルマタ林業】合原真知子、合原真典、藤村勇二、清水孝幸、中野真弘 【森林インストラクター】野見山和子 【日田市森林組合】和田正樹 【パストリビッド】中村龍樹、前島幹 【日本フォレスト・天童工務】水田和幸 【TODAKA WOOD STUDIO】戸島隆雄、藤村真知子、藤村真知子 【日田市農務局】長瀬好彦、長瀬好彦

# 2025年度の取り組み

『西日本新聞』  
2025年12月20日  
朝刊 掲載記事

- 2025テーマ「エネルギー」：ソーシャルアントレプレナーに取材@大分
- アンケート結果：「また参加したい」100%  
「今ある資源を活用できる」事前3.4→事後4.2 ( $t=2.75, p<.005$ )

西日本新聞 福岡工業大学 × ともも記者  
福岡工業大学 アントレプレナーシップ教育企画

## 社会課題を自分ごとと捉え 小中高生と大学生が学び合う

福岡工業大学(福岡市南区)は、PARKS(PARKS)のスタートアップ・エコシステムを創出していく教育プログラムとして、今年も西日本新聞社と協力してアントレプレナーシップ教育企画を実施しました。世の中に関心を持ち社会をより良くするため、自由な発想で自分らしく社会課題の解決策を考える取り組み。3年目のテーマは「エネルギー」で、西日本新聞子ども記者の経験者10人が6月から10月にかけて、大学生メンターとコミュニケーションを深めながら学びました。



【記者団】記者団のメンバーとメンター。記者団は6月10日に福岡工業大学で記者会見を行いました。記者団は6月10日に福岡工業大学で記者会見を行いました。記者団は6月10日に福岡工業大学で記者会見を行いました。

**アントレプレナーシップ教育企画**とは  
アントレプレナーシップとは、日本企業に取って「創業精神、創業的気風や行動力である能力も指すだけでなく、最新のキャリアめざしを指すことで世の中をより良くするために社会課題を自ら解決する教育です。

**PARKS(パークス)**とは  
Platform for All Regions of Kyushu&Okinawa for Startup ecosystem. 国立研究開発法人科学技術振興機構(STI)による「大学・エコシステム連携型スタートアップ・エコシステム形成支援」の提供を受け、オール九州一歩一歩につながるスタートアップ・エコシステムを創出することを目指す。九州の各地域と連携したスタートアップ・エコシステムを創出していく。アントレプレナーシップ人材育成プログラムの提供。連携は、PARKSの創り出す一つ。

### 1 事前学習

**アントレ精神、プレゼン基本学ぶ**  
取材地の小中高生10人は6月末、福岡工業大学の事前学習会に参加しました。新聞やインターネットなどで「エネルギー」について調べ直し、自分の取材テーマを決定しました。岡大の野矢香教授は、アントレプレナーシップ教育について「自分らしく社会課題を捉え、考え行動する」が重要だと語り、自身の意見を発表するなどの15項目の必要スキルを示し、各自に自己採点を求めました。取材の成果を発表するコンテストに向けたプレゼンテーションの基本を学ぶグループでは、自己紹介や大学生メンターとディスカッション。中野教授は「アントレの精神は失敗を恐れないこと。プレゼンは内容だけでなく、目撃記をするなど伝え方にも気を付けて、一番大事なのは熱意です」とアドバイスしました。



### 3 発表資料制作

**資料づくりアドバイス**  
現地取材を終えた10人は、各自が考えた発表テーマに関連する新聞記事を探し、授業内容の具体化に取り組みました。9月末には福岡工業大学で、大学生メンターが子どもたちの資料作りについて指導する学習会を開きました。パワーポイントを駆使して、発表資料の整理や見やすいレイアウト、写真・イラストの活用などをマンツーマンでアドバイス。子どもたちは「もっとアピールするにはどうすればいいですか」と質問しながらパソコンに向き合っていました。



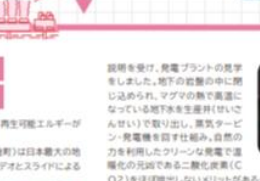
### 4 コンテスト

**新聞記事で考え深め提案**  
取材と学習の成果を発表する「新聞コミュニケーションコンテスト」は10月26日、福岡工業大学であり、10人がプレゼンテーション(1人1分)で学びを共有しました。子どもたちは「エネルギーについて自分らしい問題意識を持ち、関連する新聞記事を探し、考えを深めたこと、社会課題を解決する具体案について、パワーポイントなどにまとめた、1人5分の持ち時間で、保護者を招いた約40人前に発表しました。



### 2 現地取材

**地熱、水力発電の仕組み学ぶ  
再生可能エネルギーの未来へ**  
取材前は夏休みに1泊2日大分県の九重町と田原市を訪れ、再生可能エネルギーが取り出されている現場を取材しました。くじゅう連山の一角にある八丁郡(はっちょうばら)発電所(九重町)は日本最大の地熱発電所。発電所の構造が丸い丸いパイプの組立からピロピロと音がする。取材前はヘルメットを着用して、轟音する発電装置を見学。流れる水を駆使する田原水力センターは、総合管理センターのリアルタイムで監視されるデータが活用されています。子どもたちは治水と利水の役割が異なることについて、「水力発電のデメリットはありますか?」と質問し、治水と利水の役割が異なることを学びました。



**西日本新聞子ども記者**とは  
2010年にスタートし、これまでに小学生の約600人が中心に活動し、取材・編集・撮影・編集・印刷・発行まで、現場体験を通じて、社会課題を自分ごとと捉え、考え行動する取り組みを行っています。

### 活動を振り返って

<p><b>「やってみよう」が大事</b></p> <p>自分が何をしたいかを考え、やってみよう。やってみると、自分が何をしたいかを考え、やってみよう。やってみると、自分が何をしたいかを考え、やってみよう。</p>	<p><b>聞く人のことを考えた</b></p> <p>プレゼンテーションは、聞く人のことを考えた。プレゼンテーションは、聞く人のことを考えた。プレゼンテーションは、聞く人のことを考えた。</p>	<p><b>具体的なアイデア工夫</b></p> <p>具体的なアイデア工夫。具体的なアイデア工夫。具体的なアイデア工夫。具体的なアイデア工夫。具体的なアイデア工夫。</p>	<p><b>アイデアと発想に感心</b></p> <p>アイデアと発想に感心。アイデアと発想に感心。アイデアと発想に感心。アイデアと発想に感心。アイデアと発想に感心。</p>
---	--	---	---

# 配布用ワークブック



小中高校生が大学生と学ぶ

## 福岡工業大学 アントレプレナーシップ 教育企画

社会をよりよくするため 自由な発想で自分らしく

## 社会をよりよくするため 自由な発想で自分らしく

世の中がより豊かになるにはどうしたらいいだろう。  
地域の困り事はどうしたら解決できるだろう。  
そんなことを、ふと思ったことはありませんか？

思い浮かべたあなたは「アントレプレナーシップ」の芽を育てるチャンスです。  
アントレプレナーシップとは起業家的な精神のことで、自分の人生を豊かにしたり  
社会をより良くしたりできる人材を育てるのがアントレプレナーシップ教育の狙いです。  
国立研究開発法人・科学技術振興機構(JST)による

「大学・エコシステム推進型スタートアップシステム形成支援」の採択を受け、  
九州・沖縄の大学など全19機関で九州・沖縄のスタートアップ・エコシステムを創出していく  
Platform for All Regions of Kyushu&Okinawa for  
Startup-ecosystem(PARKS)が設立されました。

福岡工業大学はEDGE-PRIME Initiativeの助成により、その考えを育むプログラムを  
2023年6月から12月にかけて、西日本新聞こども記者の経験者たちと実施しました。  
子どもたちは自ら現場に行き、地域の課題に取り組む人たちから話を聞き、  
アントレプレナーシップを学びました。

### ご挨拶



福岡工業大学  
教養力育成センター 教授  
中野 美香

福岡工業大学の掲げるビジョンは「強い人間力で知識・技術を融合し、社会に  
貢献するグローバルな実践型人材の育成」です。VUCA(不安定、不確実、複雑、曖昧)時代を生き抜くために、新しい感性で社会の課題を解決してほしいと  
PARKSに参加しています。

大学生を見ると、人との関わりや地域の活動を通して誰かの役に立った  
経験が、成長に影響を与えていると感じます。一方、情報通信機器の普及により、  
その関わりは閉じたものになりがちです。もっと早期から異年齢の人たちと  
「異なるものの見方」に触れるコミュニティが、彼らの世界を広げるためには必要です。

今回、授業で本学を10年支えてくださっている西日本新聞社様と協力し、問  
題意識や発信力が高く、取材や記事執筆を経験してきた同社のこども記者とタイ  
アップしました。大学、新聞社、学生、こども記者——と組織や年齢にとらわ  
れない交流で、お互いの「その人らしさ」や「いい所」を探し、社会をよりよくする  
ために自分にできることを考えました。そのシナジー(相乗効果)により、子ど  
もも大人も学び合う教育プログラムになりました。この場をお借りして、関係者  
ならびに取材に協力くださった皆様にも心より御礼申し上げます。

## 福岡工業大学が取り組むアントレプレナーシップ教育

福岡工業大学では、小中高校生が大学生と一緒に取材  
やワークショップ、プレゼンテーションを通じてアントレプ  
レナーシップを学ぶ企画を西日本新聞社とコラボレーショ  
ンして実施しました。事前学習、現地取材、発表のステップ  
に沿って、今回の取り組みを紹介します。

### 福岡工業大学

- ・大学生メンターの推薦
- ・研究紹介
- ・取材開発・作成
- ・成果発表

### 西日本新聞社

- ・こども記者の推薦
- ・取材活動のコーディネート
- ・課題作成の指導
- ・広報



### 学習の流れ

#### STEP 01 事前学習

興味関心の探索・社会理解

#### STEP 02 現地取材

現地に赴き当事者の声や  
状況を視察

#### STEP 03 発表

多様なものの見方を取り入れつつ、  
自分の意見をまとめる

### STEP 01 事前学習

## 基礎知識を学び質問を考える

取材に参加するこども記者14人は7月、オンラインによる  
事前学習会に参加しました。海洋ごみ問題、こども食堂の  
テーマごとに分かれて約1時間、関連する新聞記事を参考資  
料にして大人記者がこども記者に向けて現地取材の前に知っ  
ておいてほしい基礎知識を講義しました。

海洋ごみ問題では「どれくらいの海洋ごみが漂着・回収さ  
れているの?」「どんなごみが多いの?」、こども食堂では「こ  
ども食堂って、そもそも何をするとこ?」「子どもの貧困で  
どうということ?」。こども記者は新聞や本などで下調べをして  
質問を考え、取材当日に備えました。

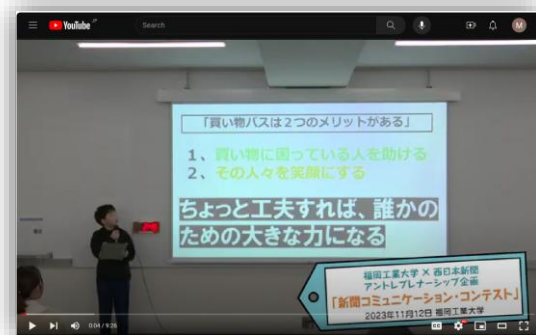


### こども記者とは

西日本新聞こども記者は、2010年にスタート、任期1年でこれまでに  
800人以上がこども記者として、九州を中心に全国各地で取材活動を  
してきました。スポーツ、芸術、伝統工芸、最先端技術、戦争や環境問題  
など幅広いテーマで現場を訪問。著名人や専門家を講師に招いたワーク  
ショップなどにも参加して記事を書きます。多くの出会いや経験が子ど  
もたちを大きく成長させる取り組みとして全国でも注目されています。



# ■ 動画コンテンツ



毎年、動画コンテンツを追加しています。



**FIT** Fukuoka Institute of Technology  
福岡工業大学

PARKS  
EDGE PRIME  
INITIATIVE

For all the students ~すべての学生生徒のために